

Webアンケート 市民の環境に関する意識調査 結果・分析

調査概要

市民の環境に係る関心や課題意識を把握し、新たな環境基本計画におけるめざすべき環境像を設定等するための基礎資料とするため、インターネットによるアンケート調査を実施した。

<調査対象者> 川崎市在住の18歳以上の市民 1,573名

<調査手法>

調査地域 川崎市全域

調査手法 インターネット配布・インターネット回答

調査対象抽出法 インターネットモニター登録者（※）からの無作為抽出

（性別・年代・居住区について、人口構成比に近くなるよう考慮）

※ N T Tコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社に登録されているインターネットモニター登録者

<実施時期> 2018年9月3日～4日

<調査主体> 株式会社三菱総合研究所

N T Tコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社

アンケート設問項目

<基礎情報>

- 性別
- 年代
- 居住区（川崎区／幸区／中原区／高津区／宮前区／多摩区／麻生区）
- 川崎市での居住年数（5年未満／5～10年／11年～20年／20年以上）

<環境基本計画に関する設問>

- 問1 環境基本条例・環境基本計画に関する認知度
- 問2 環境に関する取組の優先度、各取組による改善傾向・市の取組状況に関する評価
- 問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か
- 問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと
- 問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要であると考える取組

回答者概要

回答者の性別、年代、居住区、川崎市での居住年数はそれぞれ下表のとおりである。

性別

		実数	%
全体		1573	100.0
1	男性	898	57.1
2	女性	675	42.9

年代

		実数	%
全体		1573	100.0
1	10代	8	0.5
2	20代	98	6.2
3	30代	254	16.1
4	40代	449	28.5
5	50代	413	26.3
6	60代	260	16.5
7	70代以上	91	5.8

居住区（※）

		実数	%
全体		1573	100.0
1	川崎区	203	12.9
2	幸区	150	9.5
3	中原区	262	16.7
4	高津区	241	15.3
5	宮前区	234	14.9
6	多摩区	276	17.5
7	麻生区	207	13.2
8	上記以外	0	0.0

川崎市での居住年数

		実数	%
全体		1573	100.0
1	5年未満	227	14.4
2	5～10年	235	14.9
3	11年～20年	377	24.0
4	21年以上	734	46.7

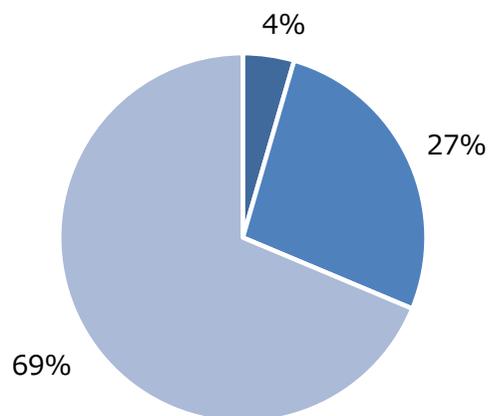
（※）居住区は、臨海部（川崎区：n=203）、内陸部（幸区・中原区・高津区：n=653）、丘陵部（宮前区・多摩区・麻生区：n=717）に分けて分析・集計を行っている。

問1 環境基本条例・環境基本計画に関する認知度

問1 環境基本条例・環境基本計画に関する認知度（全体）

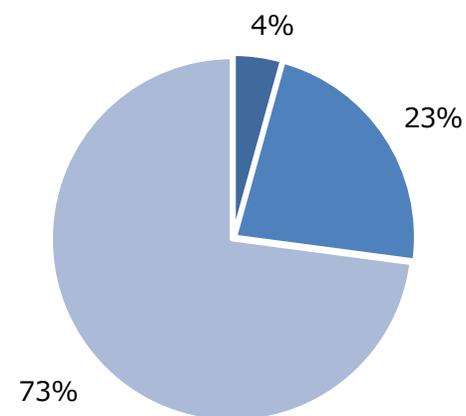
- 環境基本条例、環境基本計画に関して「内容をある程度知っている」と回答したのは全体の4%程度のみで、全体の70%程度が「知らない」と回答。（n=1573）

問1 1.環境基本条例について、どの程度知っていますか



■ 内容をある程度知っている ■ 聞いたことはある ■ 知らない

問1 2.環境基本計画について、どの程度知っていますか



■ 内容をある程度知っている ■ 聞いたことはある ■ 知らない

問1 環境基本条例・環境基本計画に関する認知度（年代別）

- いずれの認知度も、年代が上がるほど高い傾向にあるが、「知らない」という回答が6割～7割を占める。
- 最も「聞いたことがある」という回答の割合の多い70代以上でも、半数以上が環境基本条例・環境基本計画を「知らない」と回答している。

1. 環境基本条例		内容をある程度知っている	聞いたことはある	知らない
全体(n=1573)	%	4.5	26.8	68.7
10代(n=8)	%	0.0	37.5	62.5
20代(n=98)	%	3.1	23.5	73.5
30代(n=254)	%	3.9	19.7	76.4
40代(n=449)	%	5.8	21.4	72.8
50代(n=413)	%	3.1	28.1	68.8
60代(n=260)	%	5.0	36.9	58.1
70代以上(n=91)	%	6.6	40.7	52.7

2. 環境基本計画		内容をある程度知っている	聞いたことはある	知らない
全体(n=1573)	%	4.3	22.8	72.9
10代(n=8)	%	12.5	12.5	75.0
20代(n=98)	%	3.1	17.3	79.6
30代(n=254)	%	3.1	18.5	78.3
40代(n=449)	%	5.3	19.6	75.1
50代(n=413)	%	2.9	22.0	75.1
60代(n=260)	%	5.4	31.2	63.5
70代以上(n=91)	%	6.6	36.3	57.1

問1 環境基本条例・環境基本計画に関する認知度（男女別）

■ 男女別にみると、どの項目についても、男性の方が認知度が高い。

1. 環境基本条例		内容をある程度知っている	聞いたことはある	知らない
全体(n=1573)	%	4.5	26.8	68.7
男性(n=898)	%	6.5	30.0	63.6
女性(n=675)	%	1.9	22.5	75.6

2. 環境基本計画		内容をある程度知っている	聞いたことはある	知らない
全体(n=1573)	%	4.3	22.8	72.9
男性(n=898)	%	6.0	26.3	67.7
女性(n=675)	%	2.1	18.1	79.9

問1 環境基本条例・環境基本計画に関する認知度（居住年数別）

- 居住年数別で見ると、21年以上居住している層で最も「内容をある程度知っている」と「聞いたことはある」の合計の割合が高くなっているが、これは、居住年数が長い層ほど、年代の高い回答者が含まれる割合が高いことによるとと思われる。

1. 環境基本条例		内容をある程度知っている	聞いたことはある	知らない
全体(n=1573)	%	4.5	26.8	68.7
5年未満(n=227)	%	2.6	22.5	74.9
5～10年(n=235)	%	6.0	24.3	69.8
11年～20年(n=377)	%	3.7	24.9	71.4
21年以上(n=734)	%	5.0	29.8	65.1

2. 環境基本計画		内容をある程度知っている	聞いたことはある	知らない
全体(n=1573)	%	4.3	22.8	72.9
5年未満(n=227)	%	3.1	18.1	78.9
5～10年(n=235)	%	4.7	22.1	73.2
11年～20年(n=377)	%	3.4	20.7	75.9
21年以上(n=734)	%	5.0	25.5	69.5

問1 環境基本条例・環境基本計画に関する認知度

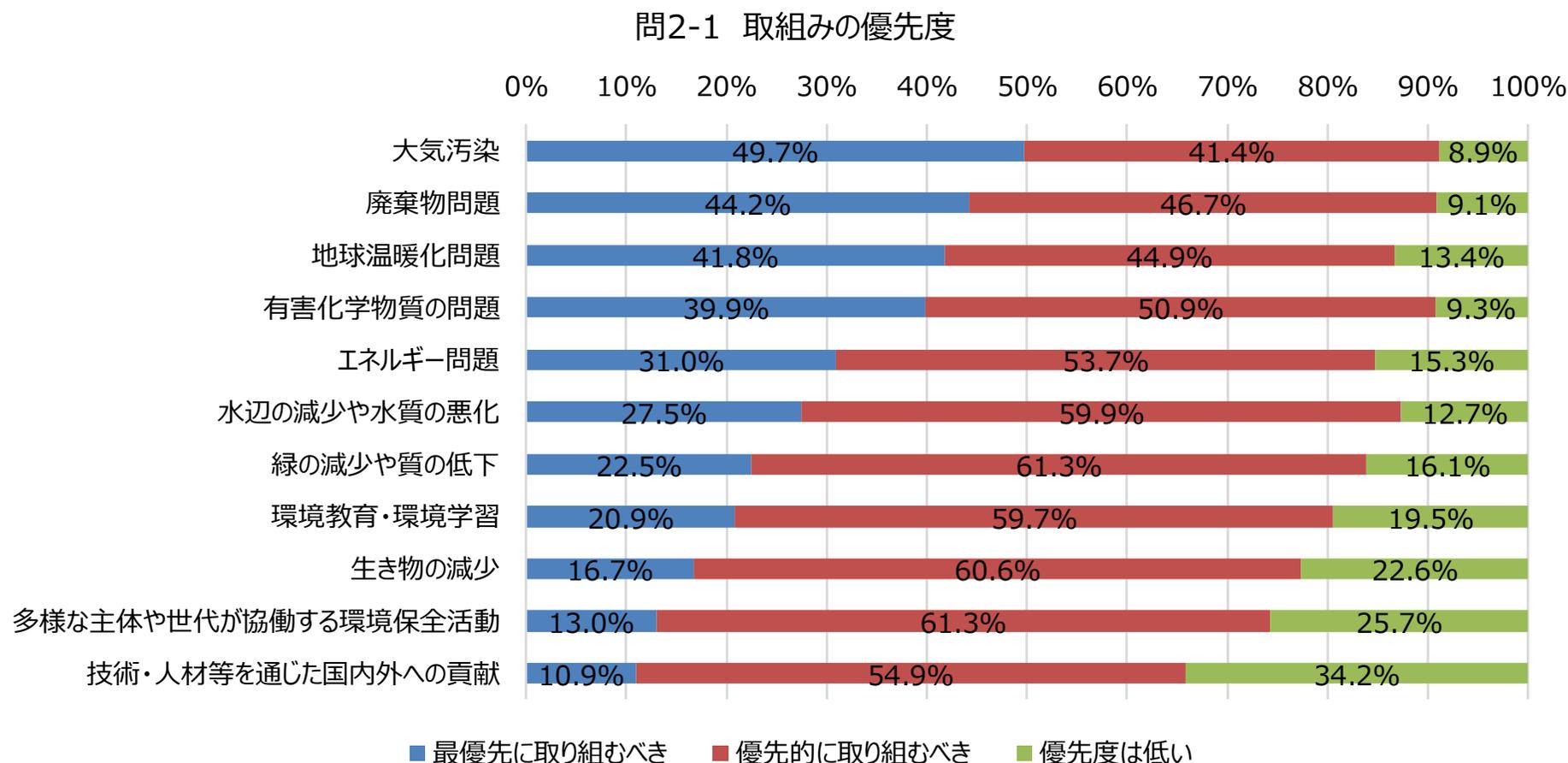
■ それぞれの回答についてクロス集計を行った結果は以下のとおり。

環境基本計画について	環境基本条例について			
	全体	内容をある程度知っている	聞いたことはある	知らない
全体	1,573	71	421	1,081
内容をある程度知っている	68	62	5	1
聞いたことはある	358	9	317	32
知らない	1,147	0	99	1,048

問2 取組みの優先度／近年の改善傾向・市が行う取組の状況

問2-1. 取組みの優先度

■「各項目について、どのような優先度をもって取り組むべきと考えますか」という設問に対しては、大気汚染、廃棄物問題、地球温暖化問題の順に、「最優先に取り組むべき」という回答が多くなった。



問2-1. 取組みの優先度（男女別）

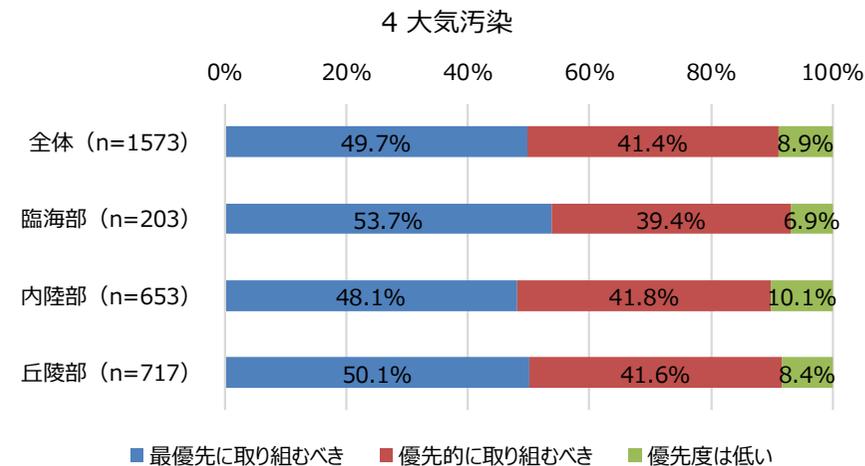
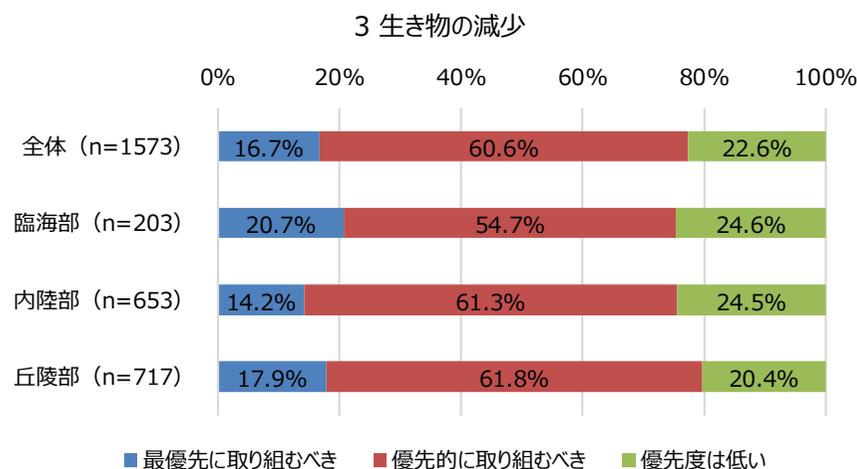
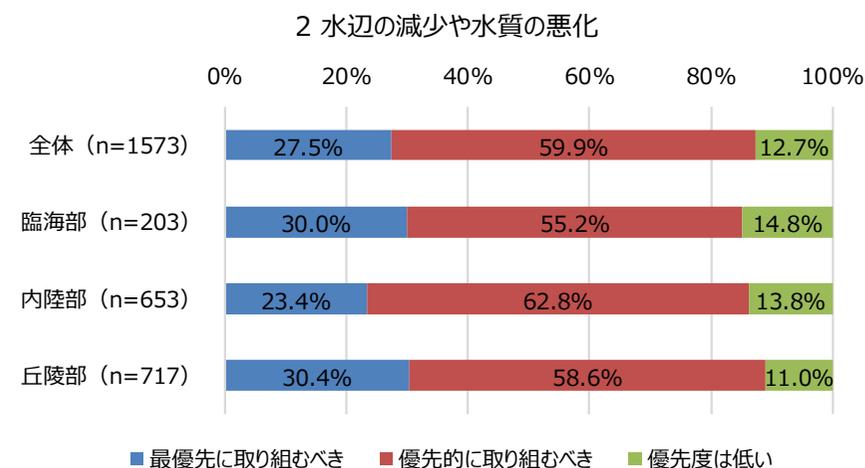
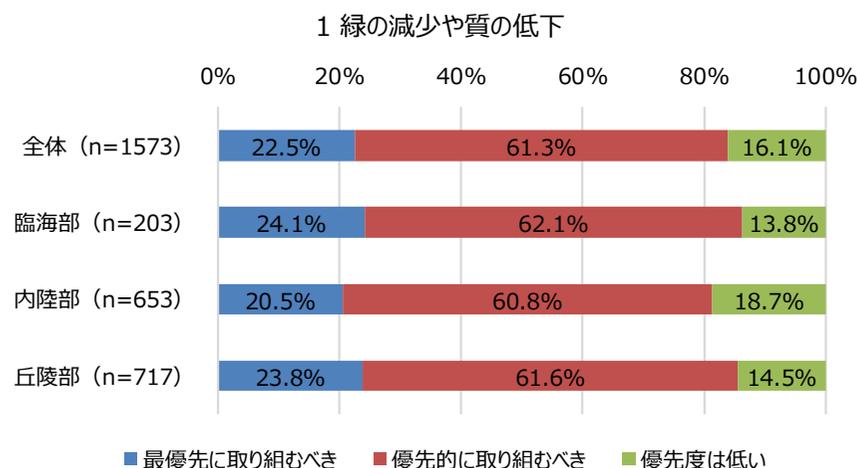
- 男女別に「最優先に取り組むべき」という回答の割合でみると、最も多いのは男女とも「大気汚染」であり、回答者の約半数が「最優先に取り組むべき」と回答している。
- 2位・3位の「廃棄物問題」と「地球温暖化問題」は、男女別で順位が逆転している。地球温暖化問題については、男性は「優先度は低い」という回答も15.9%とほかの上位項目に比べて多くなっている。
- 4位以下は、「緑の減少や質の低下」と「環境教育・環境学習」の順番が逆転しているほかは、男女で順番が同じであり、傾向に大きな差はみられない。

No.	選択肢	男性(n=898) (%)		
		最優先に取り組むべき	優先的に取り組むべき	優先度は低い
4	大気汚染	49.3	40.8	9.9
5	廃棄物問題	42.8	48.0	9.2
8	地球温暖化問題	38.2	45.9	15.9
6	有害化学物質の問題	38.1	51.4	10.5
7	エネルギー問題	31.0	52.1	16.9
2	水辺の減少や水質の悪化	28.7	59.7	11.6
1	緑の減少や質の低下	24.8	61.2	13.9
9	環境教育・環境学習	20.8	58.7	20.5
3	生き物の減少	17.4	61.1	21.5
10	多様な主体や世代が協働する環境保全活動	13.6	59.4	27.1
11	技術・人材等を通じた国内外への貢献	11.4	52.8	35.9

No.	選択肢	女性(n=675) (%)		
		最優先に取り組むべき	優先的に取り組むべき	優先度は低い
4	大気汚染	50.2	42.2	7.6
8	地球温暖化問題	46.5	43.6	9.9
5	廃棄物問題	46.2	44.9	8.9
6	有害化学物質の問題	42.2	50.1	7.7
7	エネルギー問題	31.0	55.9	13.2
2	水辺の減少や水質の悪化	25.8	60.1	14.1
9	環境教育・環境学習	20.9	61.0	18.1
1	緑の減少や質の低下	19.4	61.5	19.1
3	生き物の減少	15.9	60.0	24.1
10	多様な主体や世代が協働する環境保全活動	12.1	63.9	24.0
11	技術・人材等を通じた国内外への貢献	10.4	57.6	32.0

問2-1. 取組みの優先度（居住地地域別：1/3）

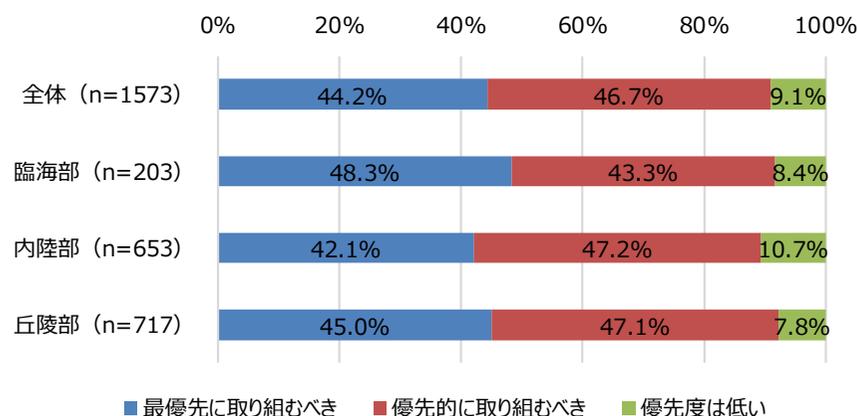
- 居住地地域別では、大きな傾向の差はないものの、地域別で±5ポイント程度の差がみられる項目が存在する。
- 「生き物の減少」「大気汚染」については、臨海部で「最優先に取り組むべき」という回答が全体の平均より4ポイント高くなっている。
- 「緑の減少や質の低下」「水辺の減少や水質の悪化」は、臨海部、丘陵部で「最優先に取り組むべき」という回答の割合が高くなっており、内陸部では低い。



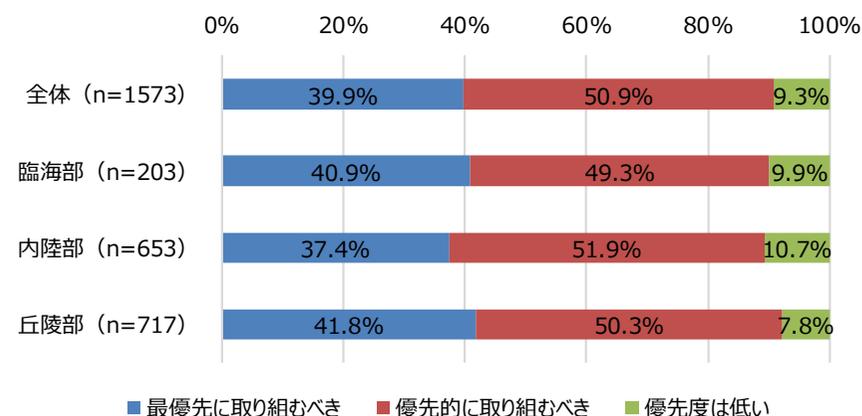
問2-1. 取組みの優先度（居住地地域別：2/3）

■「廃棄物問題」については、臨海部で、「最優先に取り組むべき」という回答が全体平均よりも4.1ポイント高くなっている。

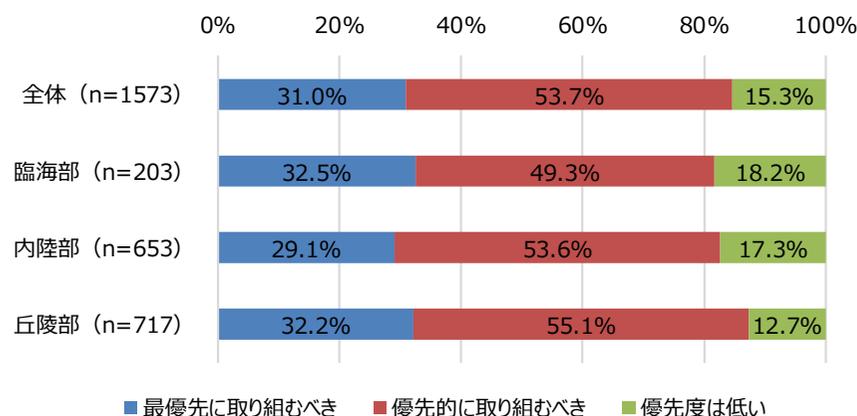
5 廃棄物問題



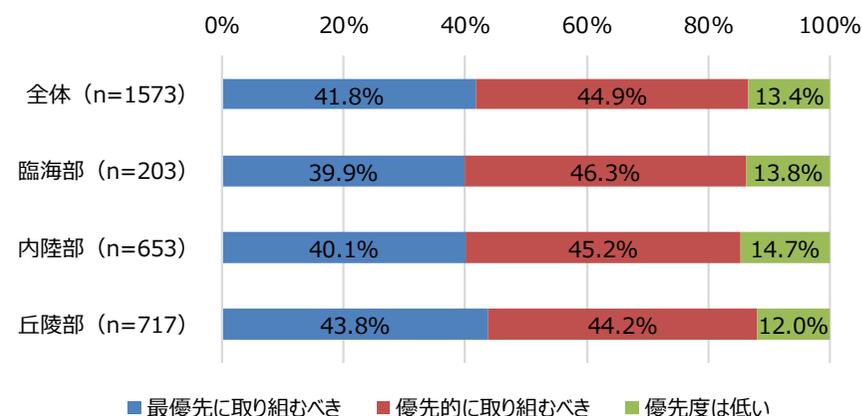
6 有害化学物質の問題



7 エネルギー問題

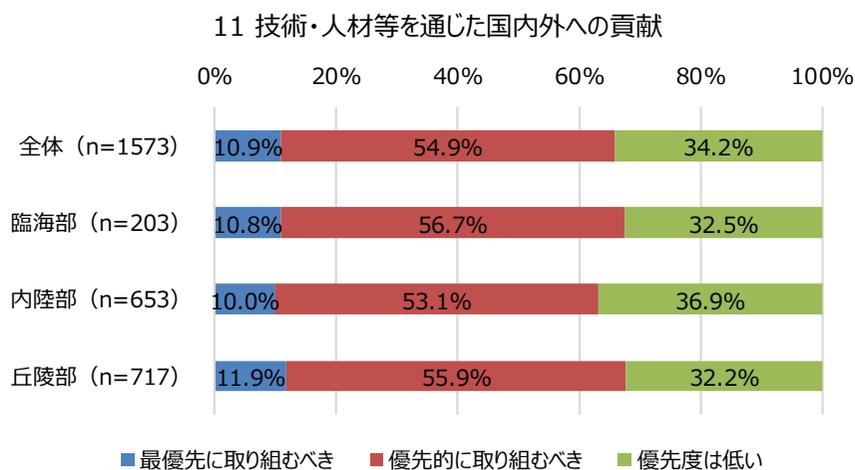
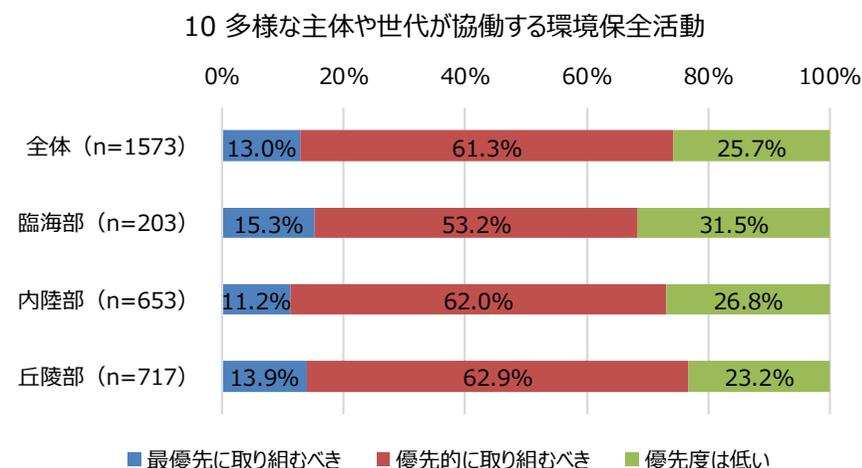
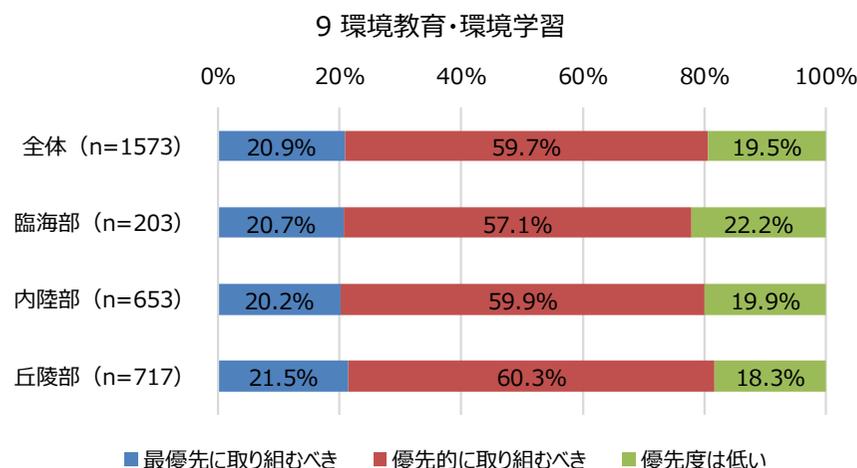


8 地球温暖化問題



問2-1. 取組みの優先度（居住地地域別：3/3）

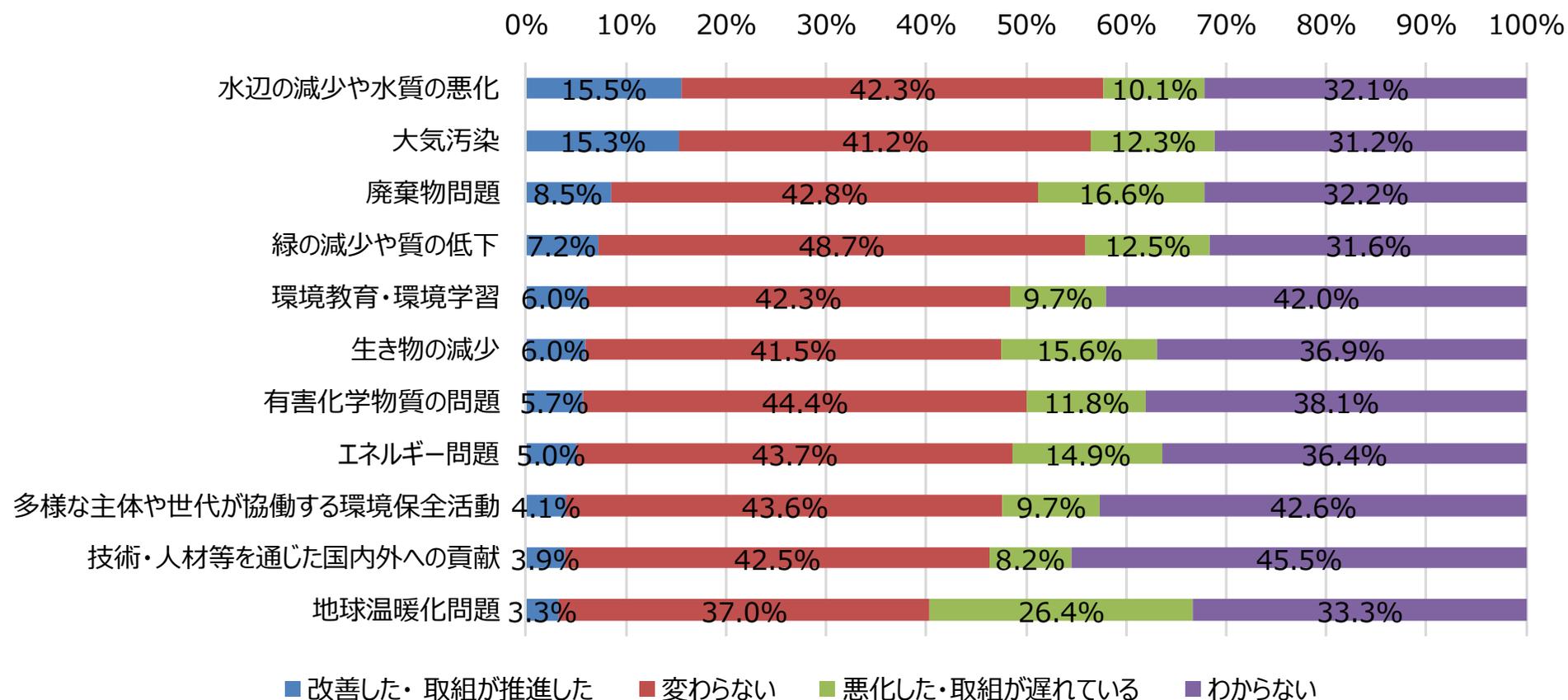
- 「環境教育・環境学習」「技術・人材等を通じた国内外への貢献」については、大きな傾向の差はみられない。
- 「多様な主体や世代が協働する環境保全活動」については、臨海部では「最優先に取り組むべき」と「優先度は低い」という回答がいずれも全体平均より高い回答の割合となっており、回答が分かれている。



問2-2. 各項目に関する近年の改善傾向・市が行う取組の状況

- 「各項目に関する近年の改善傾向又は市が行う取組の状況について、どのように考えますか」という設問に対しては、「水辺の減少や水質の悪化」、「大気汚染」については、15%程度が「改善した、取組が推進した」と回答した。
- 「地球温暖化問題」に関して、「悪化した・取組みが遅れている」という評価が26.4%と、他の項目と比較して非常に高かった。
- どの項目についても、「わからない」という回答が3～4割に上り、改善傾向や市の取組が十分に認識されていないことが示唆される。

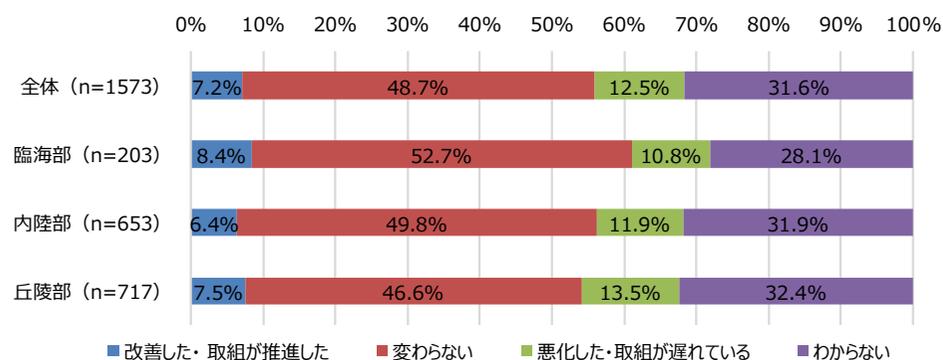
問2-2 近年の改善傾向・市が行う取組の状況の評価



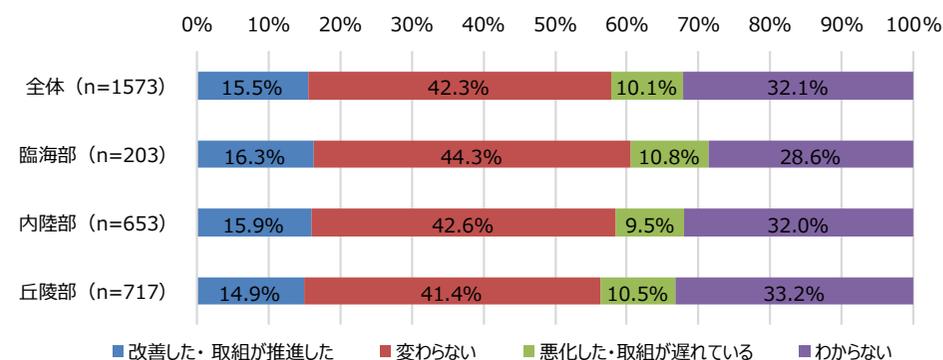
問2-2. 各項目に関する近年の改善傾向・市が行う取組の状況（居住地域別：1/3）

- 居住地域別では、大きな傾向の差はないものの、地域別で±5ポイント程度の差がみられる項目が存在する。
- 「大気汚染」については、内陸部・丘陵部と比べて、臨海部では「改善した・取組が推進した」という回答、「悪化した・取組が遅れている」という回答のどちらも5ポイント程度多くなっており、回答が分かれている。

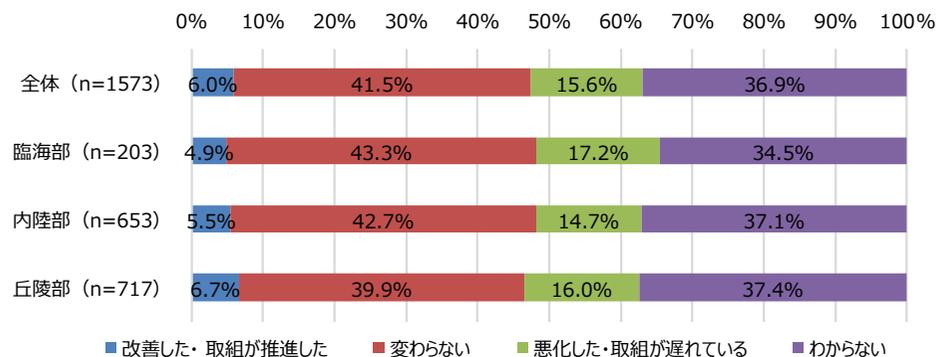
1 緑の減少や質の低下



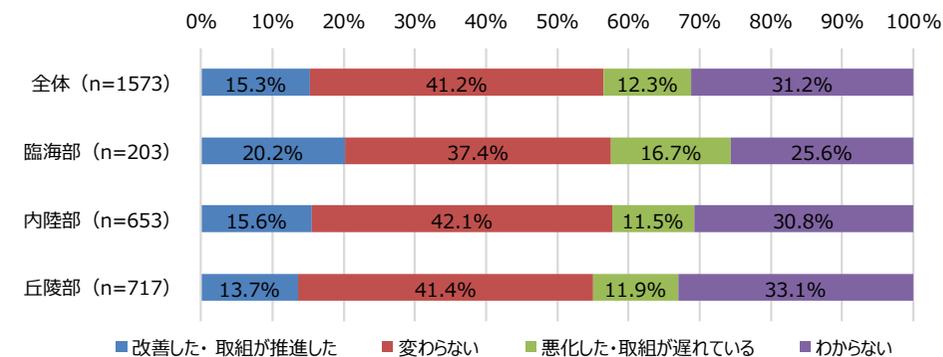
2 水辺の減少や水質の悪化



3 生き物の減少



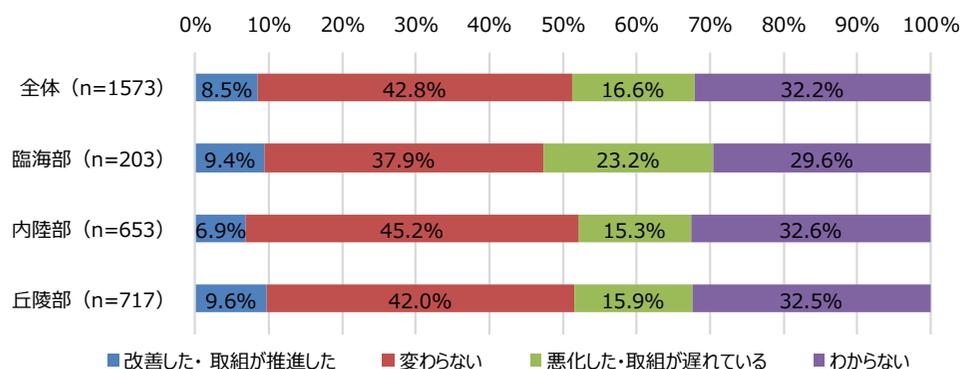
4 大気汚染



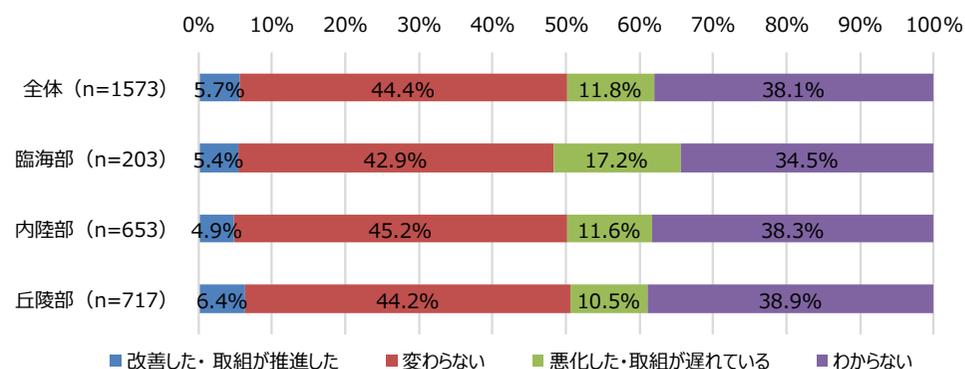
問2-2. 各項目に関する近年の改善傾向・市が行う取組の状況（居住地域別：2/3）

- 「廃棄物問題」「有害化学物質の問題」については、内陸部・丘陵部と比較して、臨海部で「悪化した・取組が遅れている」という回答が5ポイント以上多くなっている。
- 全体で最も「改善した・取組が推進した」の回答割合が低い「地球温暖化問題」については、地域別に大きな傾向の差はみられない。

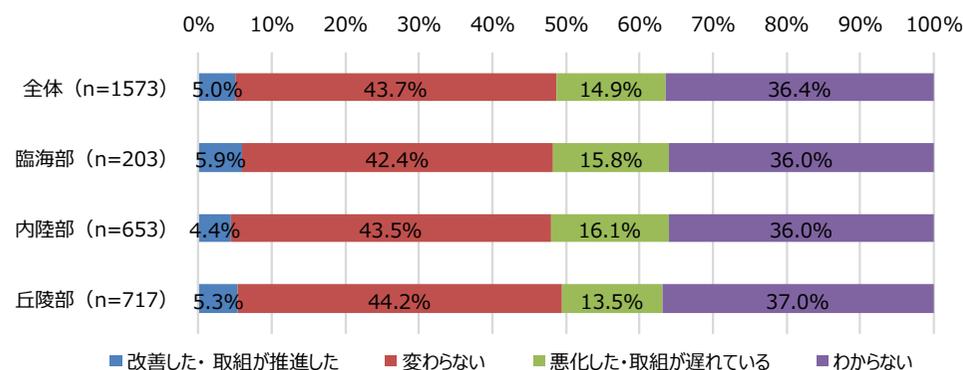
5 廃棄物問題



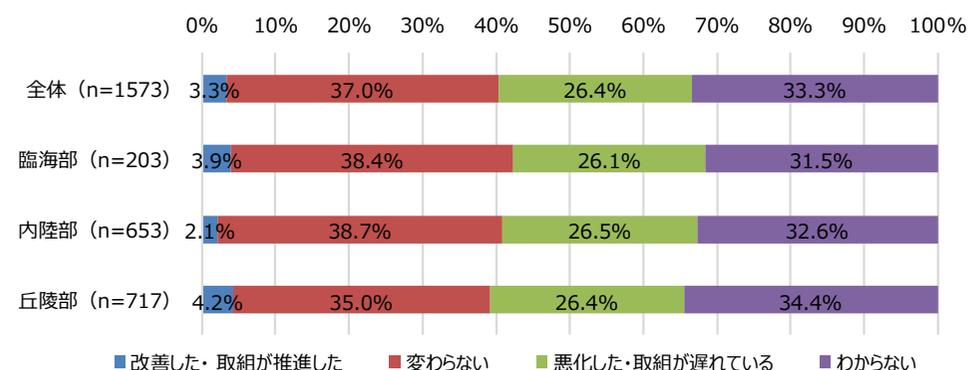
6 有害化学物質の問題



7 エネルギー問題



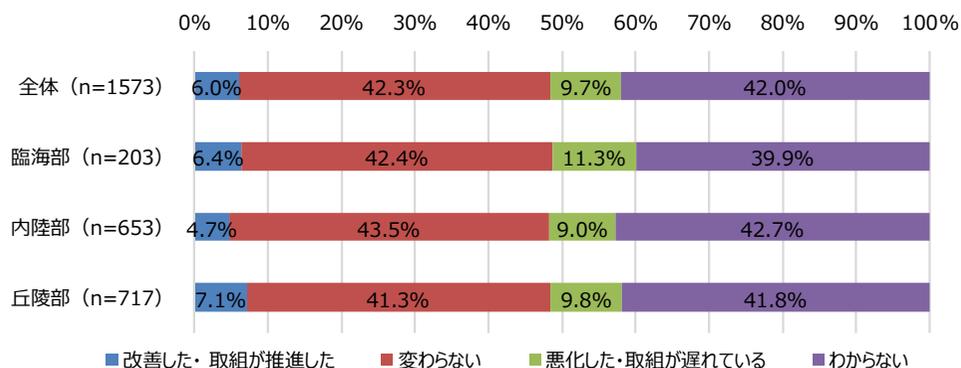
8 地球温暖化問題



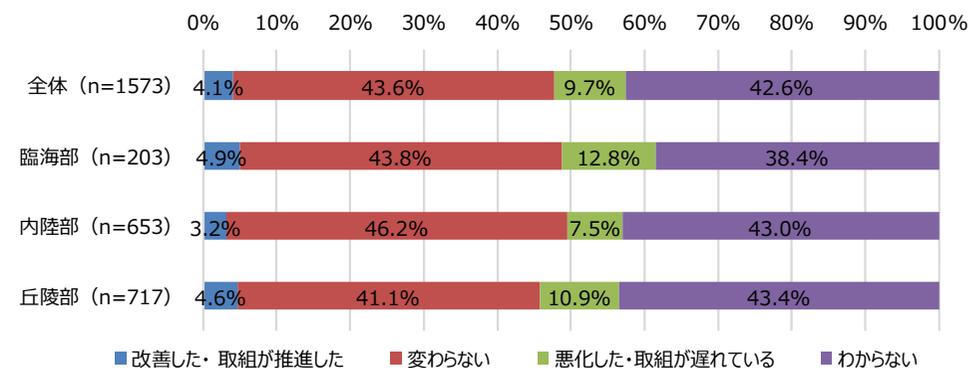
問2-2. 各項目に関する近年の改善傾向・市が行う取組の状況（居住地域別：3/3）

- 「環境教育・環境学習」「多様な主体や世代が協働する環境保全活動」「技術・人材等を通じた国内外への貢献」の各項目については、いずれも臨海部＞丘陵部＞内陸部の順で「悪化した・取組が遅れている」という回答の割合が高くなっている。
- 特に産業が集積する臨海部にて「技術・人材等を通じた国内外への貢献」に対して評価が低くなっている点については、取組の改善の余地があると考えられる。

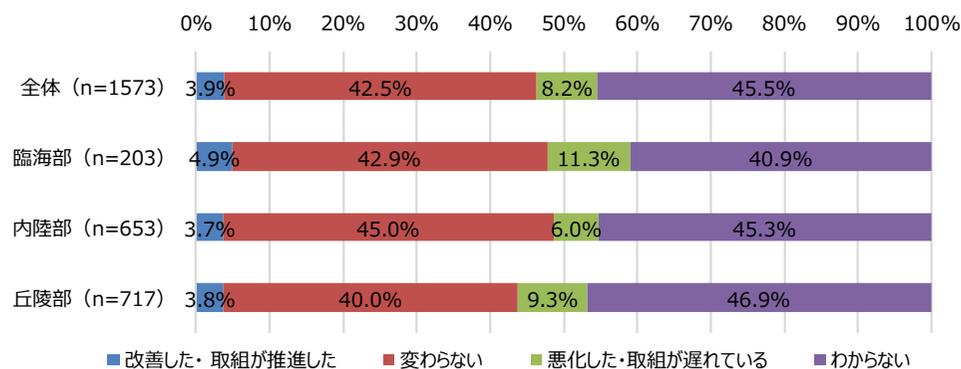
9 環境教育・環境学習



10 多様な主体や世代が協働する環境保全活動



11 技術・人材等を通じた国内外への貢献

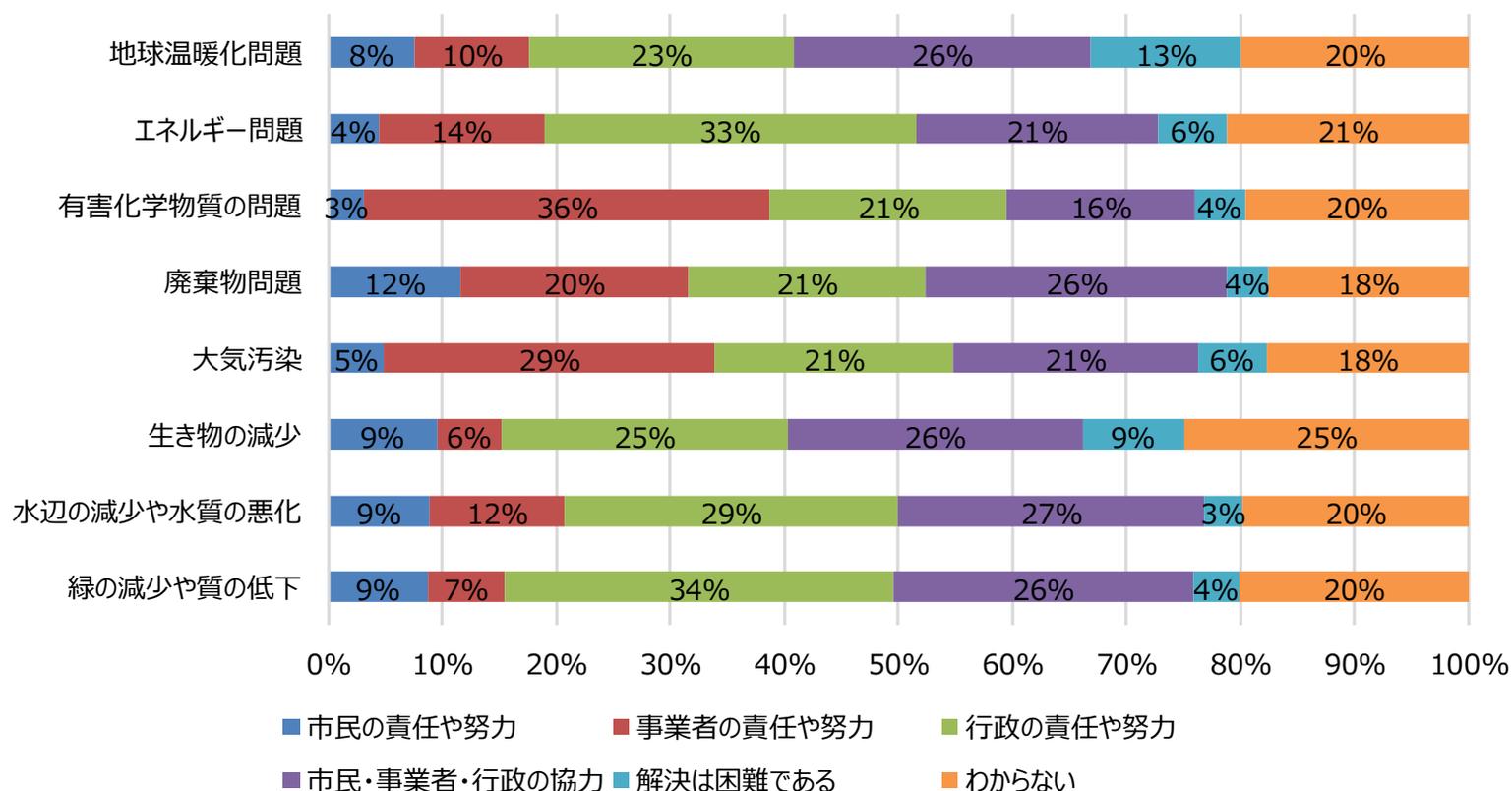


問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か

問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か

- 「有害化学物質の問題」「大気汚染」については、発生源である事業者、「緑の減少や質の低下」「エネルギー問題」「水辺の減少や水質の悪化」については行政の責任や努力を最も重要視する声が多い。
- 市民自身の責任や努力が最も重要だという意見は、「廃棄物問題」の12%が最高で、他は10%未満にとどまる。
- 他方、いずれの項目においても、「市民・事業者・行政の協力」は一定の割合を占めている。

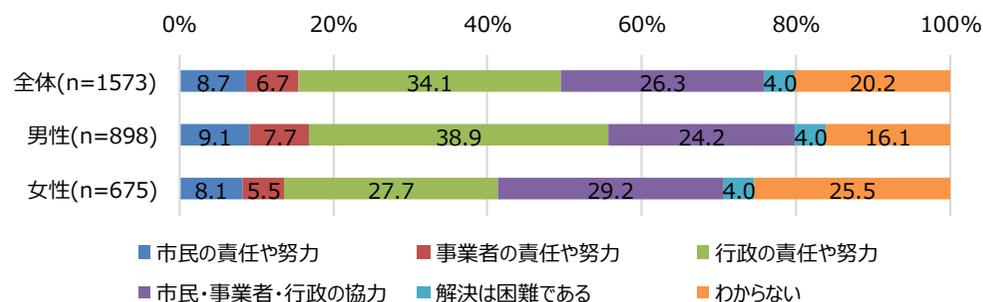
問3 環境問題解決のためには、誰の責任や努力が最も重要か



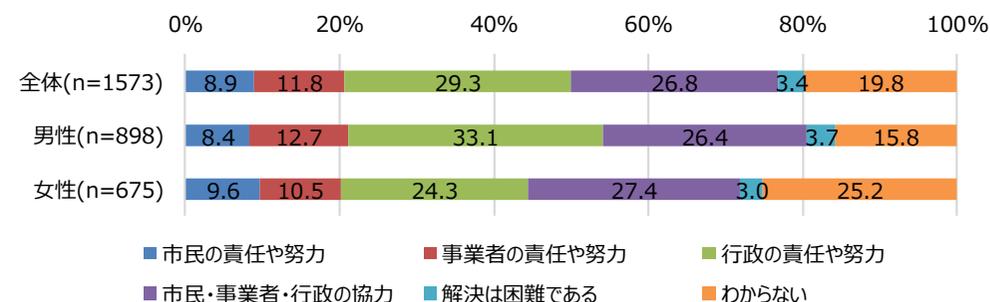
問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か（男女別 1/2）

- 男女別にみると、全ての項目において、男性の方が「行政の責任や努力」を重要視する回答の割合が高い。また、エネルギー問題以外の7項目において、「事業者の責任や努力」を重要視する回答の割合が高い。
- 全ての項目において、女性の方が「わからない」という回答の割合が高い。

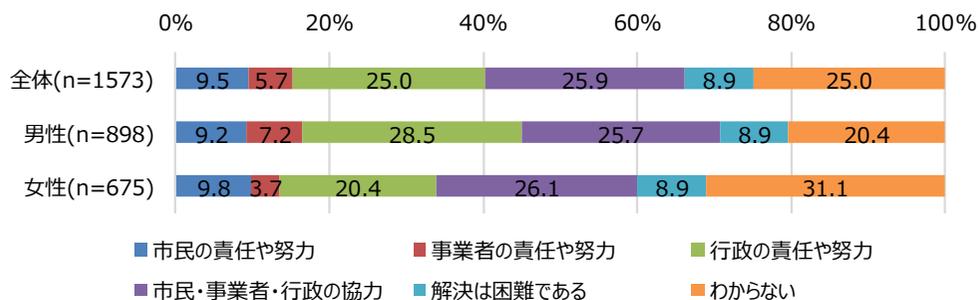
1. 緑の減少や質の低下



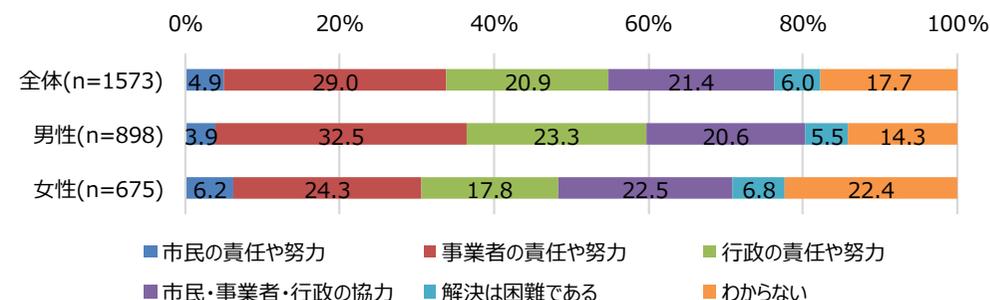
2. 水辺の減少や水質の悪化



3. 生き物の減少



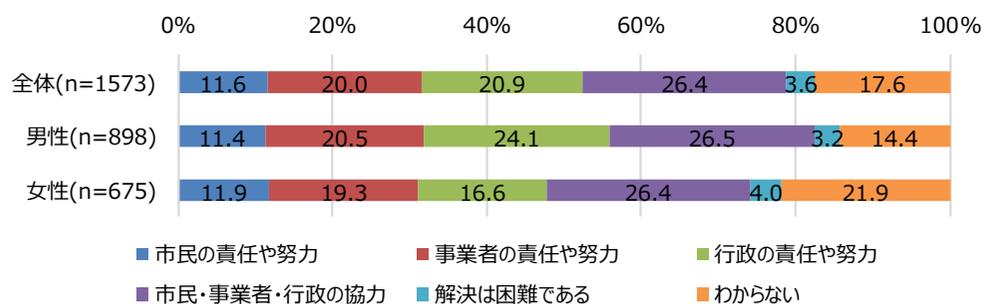
4. 大気汚染



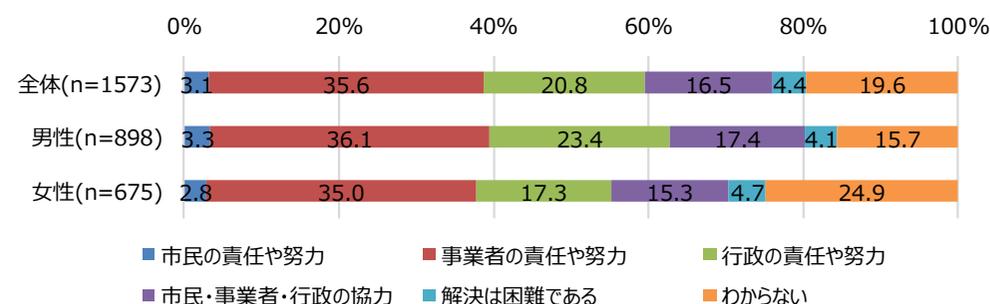
問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か（男女別 2/2）

- 男女別にみると、全ての項目において、男性の方が「行政の責任や努力」を重要視する回答の割合が高い。またエネルギー問題以外の7項目において、「事業者の責任や努力」を重要視する回答の割合が高い。
- 全ての項目において、女性の方が「わからない」という回答の割合が高い。

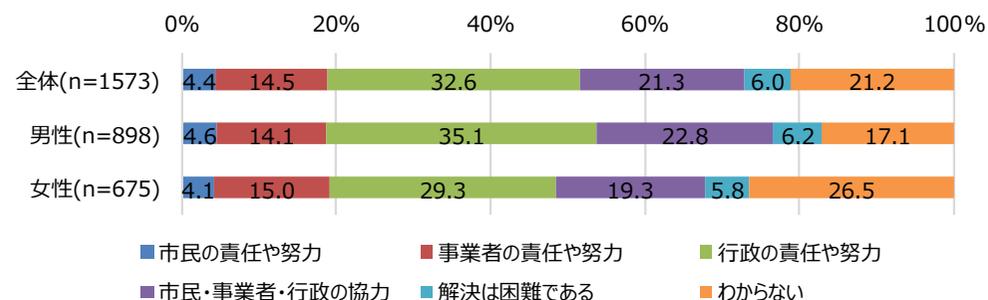
5. 廃棄物問題



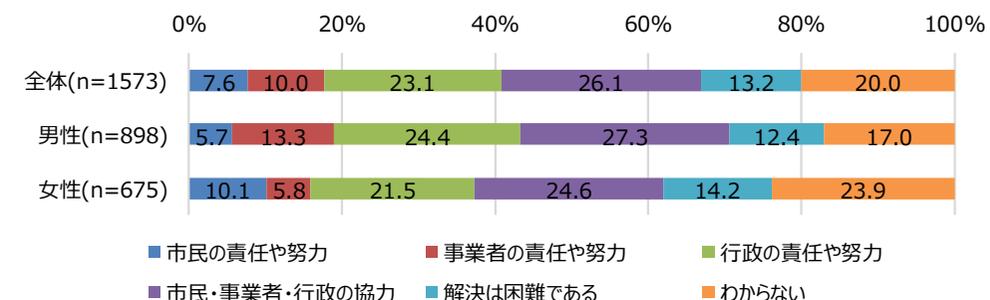
6. 有害化学物質の問題



7. エネルギー問題

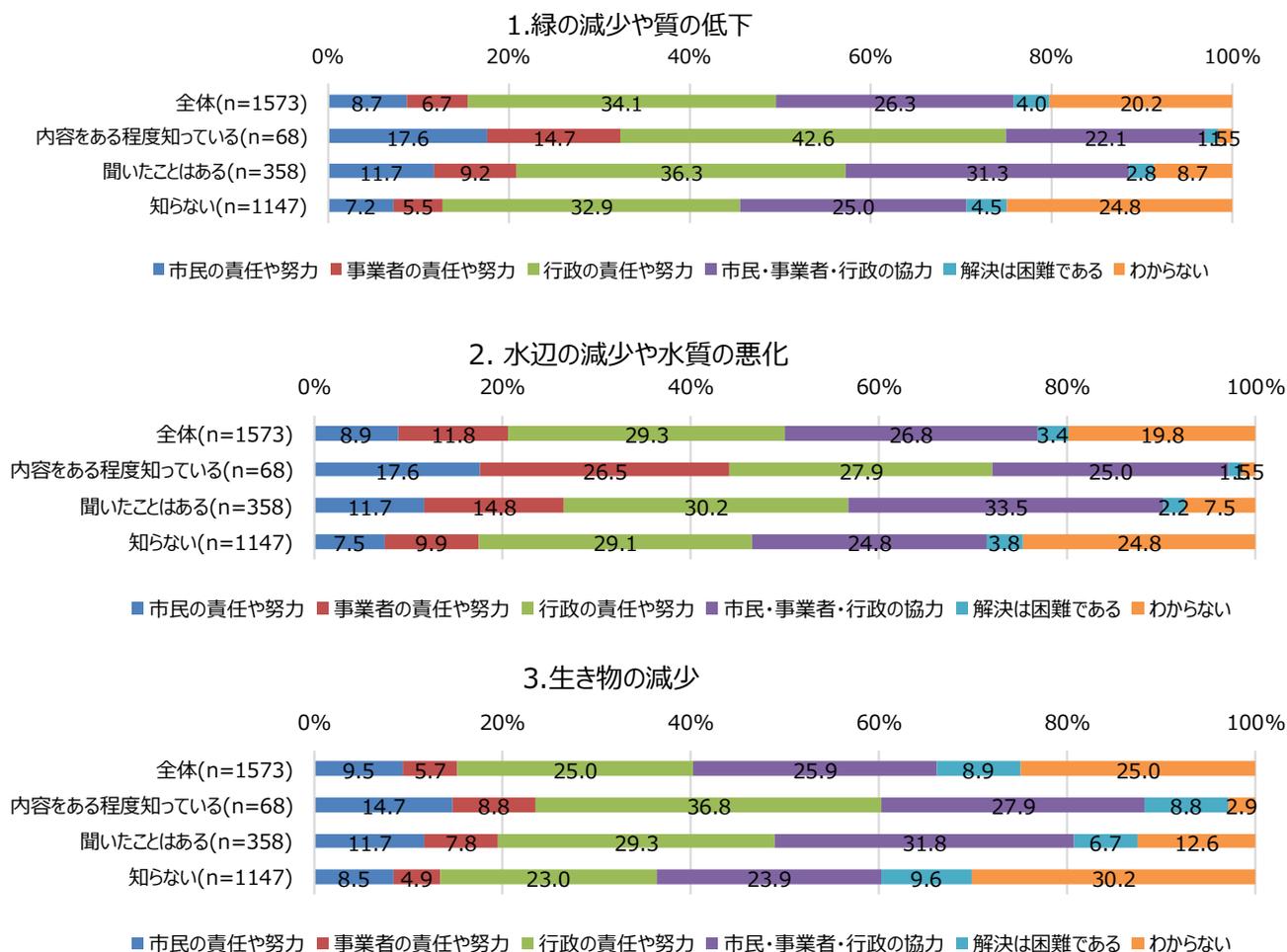


8. 地球温暖化問題



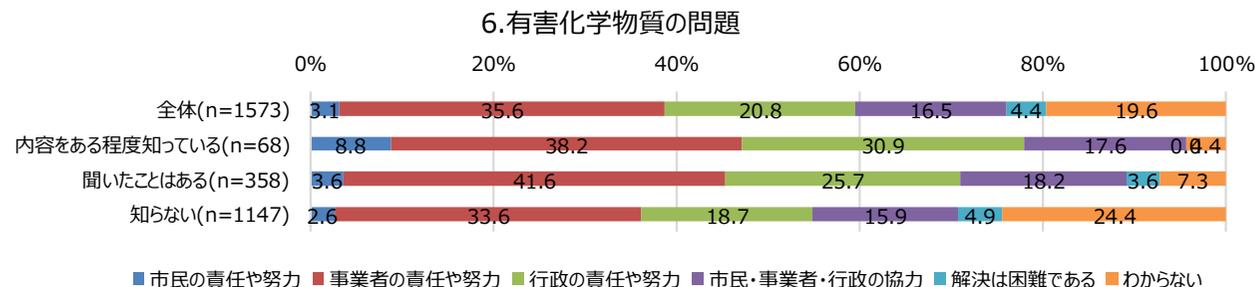
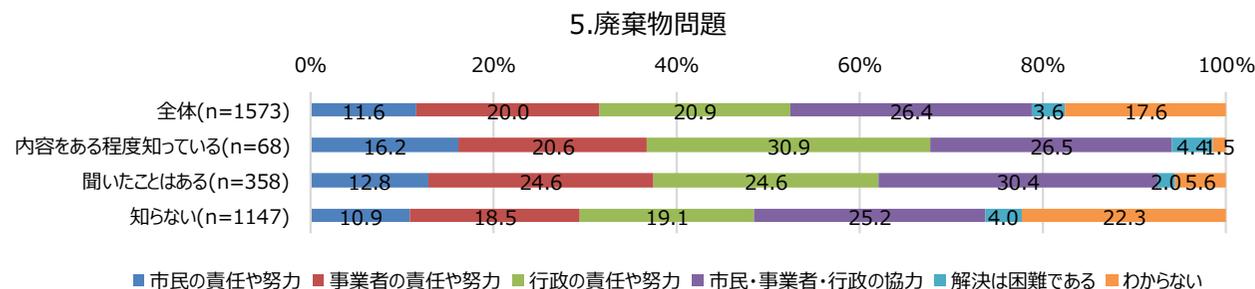
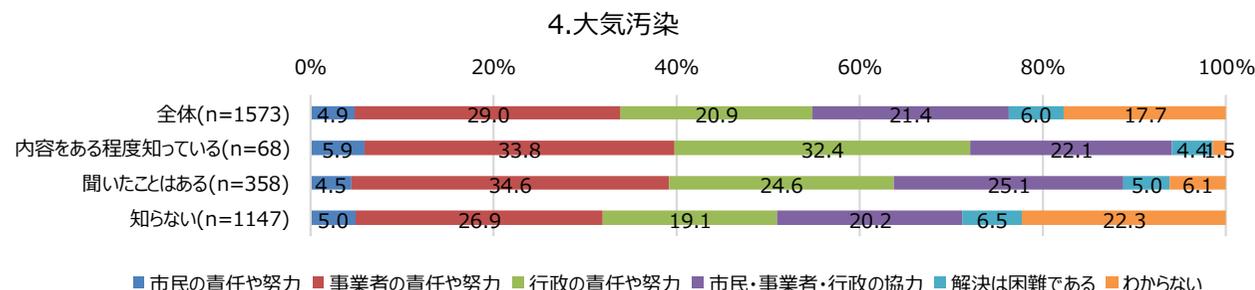
問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か（環境基本計画の認知度別 1/3）

- 環境基本計画の認知度別にみると、「大気汚染」を除く7項目において、環境基本計画の内容に対する認知度が高いほど、「市民の責任や努力」を重視する割合が高い傾向にある。
- 同様に、「水辺の減少や水質の悪化」を除く7項目において、認知度が高いほど、「行政の責任や努力」を重視する割合が高い傾向にある。



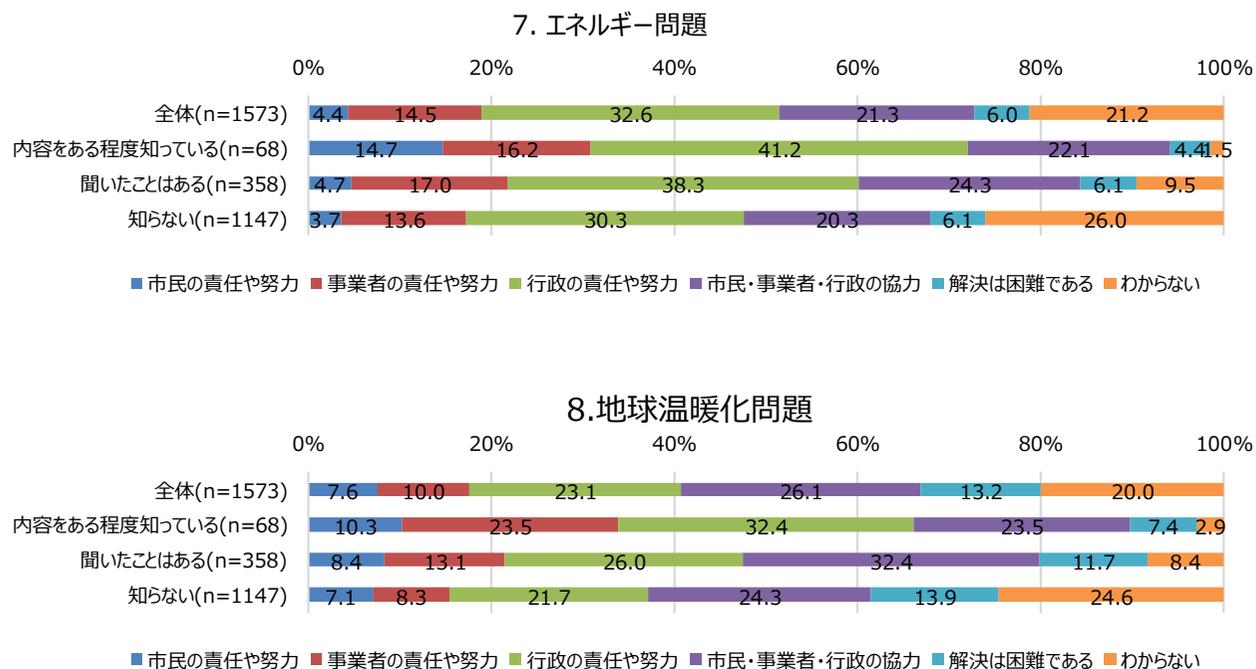
問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か（環境基本計画の認知度別 2/3）

- 環境基本計画の認知度別にみると、「大気汚染」を除く7項目において、環境基本計画の内容に対する認知度が高いほど、「市民の責任や努力」を重視する割合が高い傾向にある。
- 同様に、「水辺の減少や水質の悪化」を除く7項目において、認知度が高いほど、「行政の責任や努力」を重視する割合が高い傾向にある。



問3 環境問題の解決のために、誰の責任や努力が最も重要か（環境基本計画の認知度別 3/3）

- 地球温暖化問題については、「内容をある程度知っている」と回答した層が「行政の責任や努力」を重視する割合が最も高い一方で、「聞いたことはある」と回答した層では、「市民・事業者・行政の協力」を重視する割合が最も高くなっている。
- 「聞いたことはある」層が「市民・事業者・行政の協力」を重視する傾向は他の項目でもみられる。

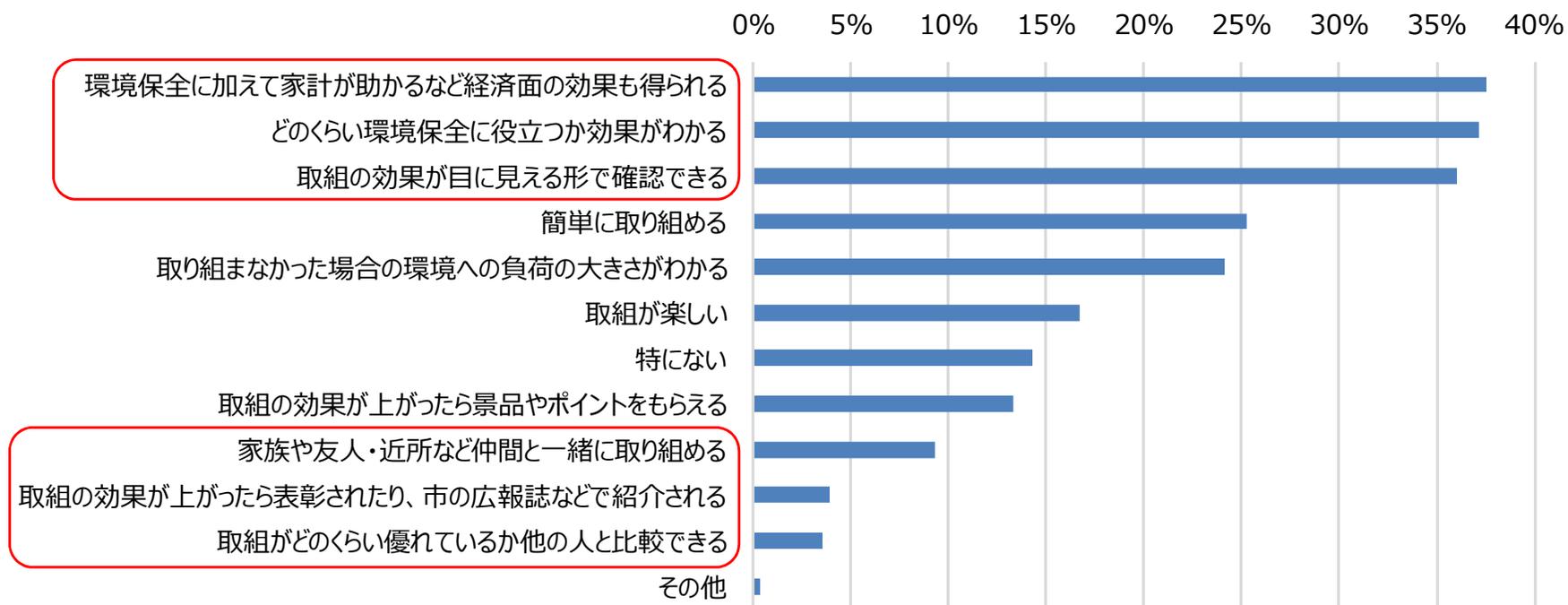


問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと

- 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なことに関しては、経済面での効果も得られること、効果が明確に確認できることが上位に挙がった。
- 他方で、仲間と一緒に取り組めることや、表彰されること、他の人との比較など、他の人とともに取り組めることを重視する回答は少なかった。

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと



※3つまで選択可、n=3488

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと（男女別）

- 男女別にみると、「簡単に取り組める」を重視する回答は女性30.1%、男性21.7%と、女性が男性を大きく上回る。また「取組が楽しい」を重視する回答は女性18.7%、男性15.3%となっており、女性の方が取組の容易さや楽しさを重視する傾向にある。
- 「取組がどのくらい優れているか他の人と比較できる」「表彰・市の広報で紹介される」といった回答は、男女とも少数ではあるものの、男性の方が重視する傾向にある。

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと（男女別）

	全体 (%)	どのくらい環境 保全に役立 つか効果がわ かる	環境保全に 加えて家計が 助かるなど経 済面の効果 も得られる	取組が楽しい	取組まな かった場合の 環境への負 荷の大きさが わかる	家族や友人・ 近所など仲間 と一緒に取り 組める	取組がどのくら い優れている か他の人と比 較できる	取組の効果 が上がったら 表彰されたり、市の広報 誌などで紹介 される	取組の効果 が上がったら 景品やポイント をもらえる	取組の効果 が目に見える 形で確認でき る	簡単に取り組 める	その他	特にな い
全体(n=1573)	100.0	37.2	37.6	16.7	24.2	9.3	3.6	3.9	13.3	36.0	25.3	0.4	14.3
男性(n=898)	100.0	37.6	38.3	15.3	24.9	9.4	4.5	4.9	12.7	34.9	21.7	0.4	14.1
女性(n=675)	100.0	36.6	36.6	18.7	23.1	9.2	2.4	2.7	14.1	37.6	30.1	0.3	14.5
女性-男性		-1.0	-1.7	3.4	-1.8	-0.2	-2.1	-2.2	1.4	2.8	8.4	-0.1	0.4

※3つまで選択可

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと（年代別）

- 年代別にみると、年代が高くなるほど、「どのくらい環境保全に役立つか効果がわかる」「取り組まなかった場合の環境への負荷の大きさがわかる」「取組の効果が目に見える形で確認できる」と回答する割合が高くなっており、年代が高いほど、取組の効果が明確に確認できることを重視する傾向にある。
- 「取組が楽しい」「簡単に取り組める」という要素は、年代による傾向は大きくみられない。

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと（年代別）

	全体 (%)	どのくらい環境 保全に役立つ か効果がわ かる	環境保全に 加えて家計が 助かるなど経 済面の効果 も得られる	取組が楽しい	取り組まな かった場合の 環境への負 荷の大きさが わかる	家族や友人・ 近所など仲間 と一緒に取り 組める	取組がどのく らい優れている か他の人と比 較できる	取組の効果 が上がったら 表彰されたり、 市の広報誌 などで紹介 される	取組の効果 が上がったら 景品やポイント をもらえる	取組の効果が 目に見える 形で確認でき る	簡単に取り組 める	その他	特にな い
全体(n=1573)	100.0	37.2	37.6	16.7	24.2	9.3	3.6	3.9	13.3	36.0	25.3	0.4	14.3
10代(n=8)	100.0	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	62.5
20代(n=98)	100.0	29.6	37.8	13.3	13.3	5.1	3.1	3.1	18.4	26.5	19.4	0.0	27.6
30代(n=254)	100.0	32.7	39.4	23.2	19.3	9.8	2.4	3.1	18.9	24.0	20.9	0.0	18.5
40代(n=449)	100.0	34.7	38.5	13.8	21.6	9.8	3.6	4.7	13.6	31.4	25.4	0.7	15.1
50代(n=413)	100.0	38.5	37.8	17.4	25.2	6.3	3.9	2.2	11.9	38.5	29.5	0.5	12.1
60代(n=260)	100.0	45.8	35.4	13.5	32.3	10.8	3.5	5.8	8.8	50.0	23.5	0.4	9.6
70代以上(n=91)	100.0	41.8	35.2	23.1	36.3	18.7	6.6	6.6	11.0	53.8	29.7	0.0	3.3

※3つまで選択可

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと（環境基本計画の認知度別）

- 環境基本計画の認知度別にみると、認知度が高いほど、「環境保全に役立つか効果がわかる」「取り組まなかった場合の負荷の大きさがわかる」など、取組の効果が明確にわかることを重視する傾向がみられる。
- 「取組が楽しい」ことを重視する回答の割合も、認知度が高いほど大きい。
- 他方、「簡単に取り組める」「取組の効果が上がったなら景品やポイントをもらえる」という回答の割合は、認知度が低いほど大きくなっており、環境に関する関心が高くない層には、まずは簡単に取り組めることや、景品・ポイントなどによるインセンティブの付与が重視される傾向が見て取れる。

問4 市民が環境に配慮した取組を進める上で重要なこと（環境基本計画の認知度別）

	全体 (%)	どのくらい環境 保全に役立つ か効果がわか る	環境保全に加 えて家計が助 かるなど経済 面の効果も得 られる	取組が楽しい	取り組まなかつ た場合の環境 への負荷の大 きさがわかる	家族や友人・ 近所など仲間 と一緒に取り 組める	取組がどのくら い優れているか 他の人と比較 できる	取組の効果が 上がったなら表彰 されたり、市の 広報誌などで 紹介される	取組の効果が 上がったなら景品 やポイントをも らえる	取組の効果が 目に見える形 で確認できる	簡単に取り組 める	その他	特にな
環境基本計画について	(%)												
全体(n=1573)	100.0	37.2	37.6	16.7	24.2	9.3	3.6	3.9	13.3	36.0	25.3	0.4	14.3
内容をある程度知っている(n=68)	100.0	48.5	48.5	25.0	32.4	14.7	8.8	11.8	10.3	27.9	13.2	0.0	2.9
聞いたことはある(n=358)	100.0	47.5	45.5	21.5	27.4	10.3	3.1	5.0	13.4	40.8	23.5	0.3	3.6
知らない(n=1147)	100.0	33.3	34.4	14.7	22.7	8.6	3.4	3.1	13.4	35.0	26.6	0.4	18.3

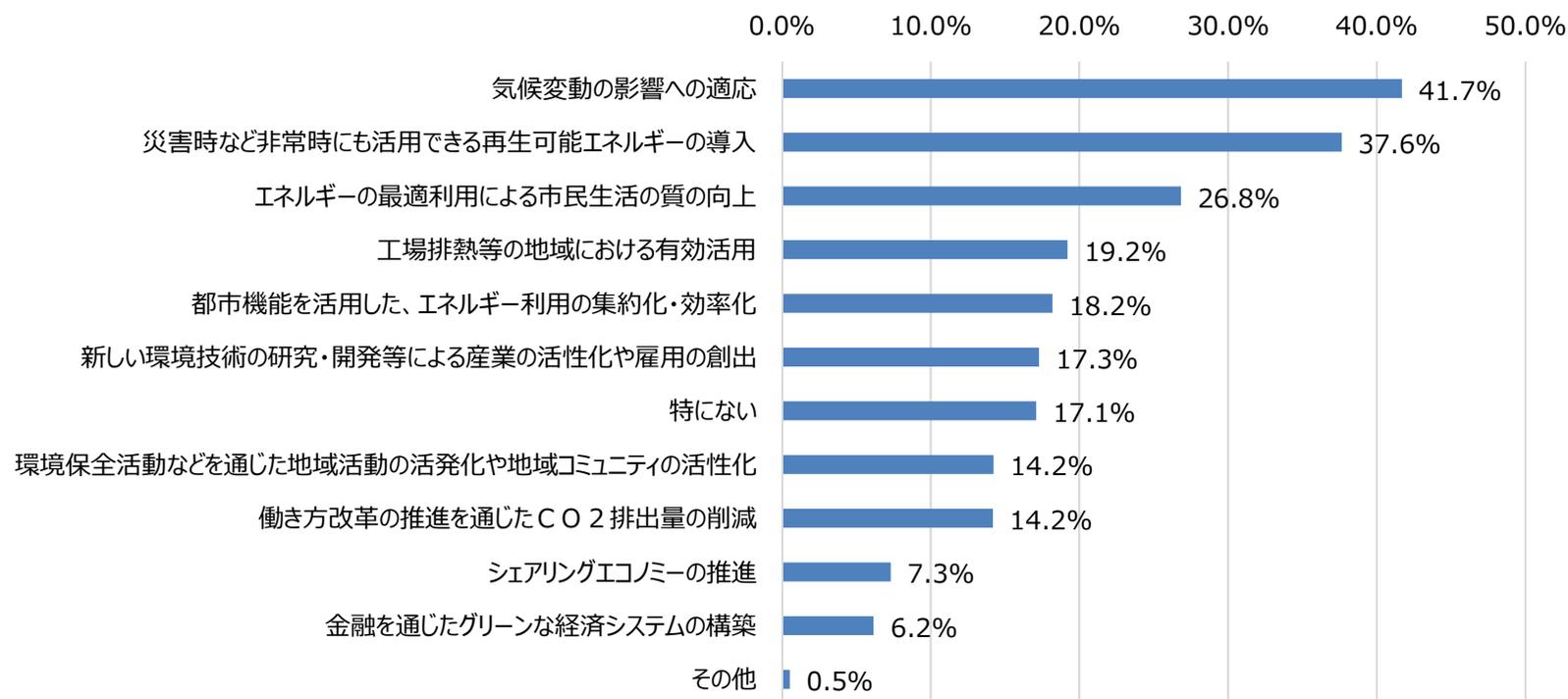
※3つまで選択可

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組

- 気候変動の影響への適応、再生可能エネルギーの導入、エネルギーの最適利用といった、環境・エネルギー問題の直接的な解決を図る選択肢が上位に挙がった。
- 震災や台風等の影響もあり、気候変動への適切な対応や非常時にも活用できる再生可能エネルギーの普及など、災害や異常気象等への対応について関心が高まっているものと思われる。
- 働き方改革、シェアリングエコノミー、金融といった、経済的・社会的な手段による環境の向上に関する選択肢に関しては、回答が少なかった。

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組



問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組（年代別）

- 「気候変動の影響への適応」「再生可能エネルギーの導入」「エネルギー利用の集約化・効率化」「工場排熱等の地域における有効活用」等、既に取組が行われている選択肢は、年代が上がるにつれて回答する割合が高くなっている傾向にある。
- 「働き方改革の推進を通じたCO2の削減」は、全体に占める回答の割合は少ないものの、働く世代の回答の割合が高くなっている。

表 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組（年代別）

	全体 (%)	気候変動の影響への適応	エネルギーの最適利用による市民生活の質の向上	災害時など非常時にも活用できる再生可能エネルギーの導入	働き方改革の推進を通じたCO2排出量の削減	新しい環境技術の研究・開発等による産業の活性化や雇用の創出	環境保全活動などを通じた地域活動の活性化や地域コミュニティの活性化	金融を通じたグリーンな経済システムの構築	都市機能を活用した、エネルギー利用の集約化・効率化	工場排熱等の地域における有効活用	シェアリングエコノミーの推進	その他	特にない
全体(n=1573)	100.0	41.7	26.8	37.6	14.2	17.3	14.2	6.2	18.2	19.2	7.3	0.5	17.1
10代(n=8)	100.0	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5
20代(n=98)	100.0	28.6	23.5	26.5	16.3	8.2	13.3	5.1	12.2	14.3	6.1	1.0	27.6
30代(n=254)	100.0	38.6	19.3	33.5	18.5	9.4	13.4	8.7	18.1	14.2	7.9	0.0	24.0
40代(n=449)	100.0	41.4	23.4	34.7	15.4	15.6	11.8	5.8	16.3	17.8	5.6	0.9	18.0
50代(n=413)	100.0	46.0	30.8	39.5	13.6	18.9	11.4	7.0	19.1	20.8	9.4	0.2	14.3
60代(n=260)	100.0	41.9	32.7	41.2	11.2	26.5	23.8	3.5	20.4	24.2	6.2	0.4	12.7
70代以上(n=91)	100.0	47.3	35.2	59.3	6.6	25.3	16.5	5.5	25.3	25.3	9.9	1.1	3.3

※3つまで選択可

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組（男女別）

- 男女別にみると、「エネルギーの最適利用による市民生活の質の向上」は、男性の回答割合が女性に比べて高くなっており、男性からの関心が高い。
- 「再生可能エネルギーの導入」「気候変動の影響への適応」に関しては、女性の回答割合が高くなっている。
- 「仕事」に関連する項目では、「産業の活性化や雇用の創出」に関しては、男性の回答割合が女性に比べて高くなっているが、「働き方改革の推進を通じたCO2排出量の削減」に関しては女性の方が高い。

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組（男女別）

	全体 (%)	気候変動の 影響への適 応	エネルギーの 最適利用に よる市民生 活の質の向 上	災害時など 非常時にも 活用できる 再生可能エ ネルギーの 導入	働き方改革 の推進を通 じたCO2 排出量の削 減	新しい環境 技術の研究・開発等 による産業 の活性化や 雇用の創出	環境保全 活動などを 通じた地域 活動の活発 化や地域コ ミュニティの 活性化	金融を通じ たグリーンな 経済システ ムの構築	都市機能を 活用した、エ ネルギー利 用の集約 化・効率化	工場排熱 等の地域に おける有効 活用	シェアリング エコミーの 推進	その他	特にない
全体(n=1573)	100.0	41.7	26.8	37.6	14.2	17.3	14.2	6.2	18.2	19.2	7.3	0.5	17.1
男性(n=898)	100.0	39.9	30.6	35.2	12.7	19.6	14.9	6.7	19.4	19.6	7.2	0.6	15.9
女性(n=675)	100.0	44.1	21.8	40.9	16.1	14.2	13.3	5.5	16.6	18.7	7.4	0.4	18.7
女性-男性		4.3	-8.8	5.7	3.5	-5.4	-1.6	-1.2	-2.8	-0.9	0.2	-0.1	2.7

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組（環境基本計画の認知度別）

- 環境基本計画の認知度別にみると、全体でも回答の割合の高い「気候変動の影響への適応」や「再生可能エネルギーの導入」、「エネルギーの最適利用による市民生活の質の向上」については、認知度が高いほど割合が高くなっている。
- サンプル数が少ないことに留意が必要だが、環境基本計画について「内容をある程度知っている」と回答した人（環境に詳しいと思われる層）68名の中で、「シェアリングエコノミーの推進」を選んだ人はいなかった。「金融を通じたグリーンな経済システムの構築」を選択した人も10%程度にとどまり、環境に詳しいと思われる層の中でも、統合的な向上を図るための取組としては十分に認識されていないことが伺える。

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組（環境基本計画の認知度別）

	全体	気候変動の影響への適応	エネルギーの最適利用による市民生活の質の向上	災害時など非常時にも活用できる再生可能エネルギーの導入	働き方改革の推進を通じたCO2排出量の削減	新しい環境技術の研究・開発等による産業の活性化や雇用の創出	環境保全活動などを通じた地域活動の活性化や地域コミュニティの活性化	金融を通じたグリーンな経済システムの構築	都市機能を活用した、エネルギー利用の集約化・効率化	工場排熱等の地域における有効活用	シェアリングエコノミーの推進	その他	特になし
環境基本計画について	(%)												
全体(n=1573)	100.0	41.7	26.8	37.6	14.2	17.3	14.2	6.2	18.2	19.2	7.3	0.5	17.1
内容をある程度知っている(n=68)	100.0	57.4	39.7	50.0	17.6	27.9	17.6	10.3	16.2	20.6	0.0	0.0	1.5
聞いたことはある(n=358)	100.0	45.3	31.6	43.9	17.6	23.7	18.4	6.1	21.8	21.8	7.5	0.3	4.5
知らない(n=1147)	100.0	39.7	24.6	35.0	12.9	14.6	12.7	5.9	17.2	18.3	7.7	0.6	22.0

※3つまで選択可